令和6年度用

観点別特色一覧表

（1）教育基本法との関連

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| **第**  **1**  **号** | 1. 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮されているか。 | 日常生活や実社会の中からバランスよく教材を取り上げ、幅広い知識と教養が身に付くように配慮しました。また、算数の学習の進め方や、問題解決の方法を具体的に示し、真理を探究する学習態度を養えるようにしました。 | ●児童の日常生活や実社会の中から教材を取り上げるとともに、それらについて意欲的に探究できる学習活動を設定することで、幅広い知識と教養が身に付くようにしました。  →1年①p.20-21、40-41、1年②p.44-45、112-113、2上p.10-13、27-31、2下p.33、3上p.56-62、71、96-97、3下p.22、p.84、4上p.13、63、86、4下p.14-15、19、52-53、58-65、5年p.12-14、16、170-171、206-213、228-229、6年p.10-11、82-83、120-121、190-192など  ●2年以上には「算数の学習の進め方」のページを設定し、自ら課題を見つけ、その課題について協働的に解決する学習の進め方を示すなど、真理を探究する学習態度を養えるようにしました。  →2上p.4-7、3上p.4-7、4上p.4-7、5年p.4-7、6年p.4-7 |
| **第**  **2**  **号** | ②個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮されているか。 | 児童一人一人に応じた教材を掲載するとともに、児童の多様な考え方を紹介するなど、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神が養えるようにしました。また、6年には、職業や勤労について考える場を用意しました。 | ●2年から6年については、すべての児童が学習する必修内容の「本編」と、個に応じて取り組める選択内容の「学びのサポ-ト（じゅんび・もっと練習・学びをつなげよう）」の2部構成とし、一人一人の学びに対応できるようにしました。  ●6年の「未来へのとびら　お仕事インタビュー」では、様々な分野で活躍する方々のインタビュー記事を掲載し、職業や勤労を重んじる態度を養えるようにしました。  →6年p.230-240 |
| **第**  **3**  **号** | ③正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。 | 教科書のキャラクター及び登場人物については、男女の区別なく取り上げ、男女の平等に配慮しました。また、問題解決にあたっては、対話や協働的な学習場面を設けるなど、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。 | ●全学年にわたり、8人の共通キャラクターを設定し、男女の偏りなく登場させることで、男女の平等を重んずる態度が身に付くようにしました。  ●学習展開においては、話し合いや伝え合う学習場面を多く設定し、他者と協働的に問題を解決していく態度が身に付くようにしました。  →1年①p.42-43、1年②p.60-61、p.76-77、2上p.13-15、2下p.68-73、3上p.10-15、4上p.116-125、4下p.8-9、5年p.53-55、6年p.106-119など |
| **第**  **4**  **号** | ④生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。 | 動植物や自然に関連する題材や、環境に関連する題材を幅広く扱い、生命を尊ぶ精神や、環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。 | ●動植物や自然、環境に関する教材を数多く取り上げ、環境や生命を尊重する心が育つようにしました。  →1年①p.8、1年②p.10、23、2上p.47、3上p.32-33、4上p.96、5年p.227、6年p.82-83、184-185など  ●3年以上に「わくわくSDGs」のページを設定し、SDGs（持続可能な開発目標）や環境教育に関する課題を取り上げ、環境の保全に寄与する態度が身に付くようにしました。  →　3下p.104-107、4下p.106-109、5年p.244-247、6年p.204-207など |
| **第**  **5**  **号** | ⑤伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮されているか。 | 日本の伝統・文化に関する題材を幅広く扱うとともに、他国の題材も積極的に採用し、郷土愛や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。 | ●鯉のぼり（1年①p.21）、七夕（2上p.72-73）、こま回し（3下p.2-3）、岡山城（4上p.13）、出雲大社・日光東照宮（4下p.19）、金閣（5年p.96-97）、平等院鳳凰堂（6年p.10-11）、かぶと（6年p.11）、博多祇園山笠（6年p.150-151）、大仙古墳（6年p.190−191）、すごろく（6年p.202-203）など、日本の伝統・文化に触れる教材を扱いました。  ●訪日外国人の数（3上p.71）、世界の小数の表し方（3下p70）、TABLE FOR TWO活動（3下p.107）、世界の国々の人口（4上p.10）など、他国や国際理解に関する教材を扱いました。 |

（2）学習指導要領への対応

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 1  算数科の目標 | 1. 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することができるように配慮されているか。 | 数学的活動が児童主体のものとなるように、課題発見や課題解決の過程を具体的に示し、数学的に考える資質・能力が育つようにしました。  さらに、数学的活動の過程で児童が働かせる「数学的な見方・考え方」を紙面上に可視化しました。 | ●児童が数学的活動を通して主体的に学習を進められるように、日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、すべての主問題（本時の問題）に「めあて」と「まとめ」を設定しました。また、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、課題発見の過程も大切にしました。  →2上p.74、3上p.57-58、4上p.85、5年p.35、81、6年p.71など  ●各時間の学習過程でポイントとなる「数学的な見方・考え方」には、児童の吹き出しにマーカーを付して価値付けられるようにしました。  →2上p.37、2下p.47、3上p.37、4上p.85、5年p.195、6年p.37など  ●2年以上の各単元の冒頭では、「これから学習することのめあて」というタイトルで課題設定文を明示することで、単元を通して統合的な見方・考え方を意識することができるようにしました。  →2上p.73、3上p.72、4下p.82、5年p.134、6年p.154など  ●2年以上には、思考法単元「見方・考え方を深めよう」を設定し、数学的活動を通して、数学的な見方・考え方を働かせながら、主体的に解決する力が育成できるようにしました。さらに、「学びを深めよう」で問題解決の際に有効な考え方（思考法）や図・表などのかき方（基礎操作）を系統的にとりあげることで、筋道立てて論理的に考える力を一層伸ばすことができるようにしました。  →2上p.64-67、114-117、2下p.56-59、3上p.32-35、4下p.30-31、68-69、5年p.94-95、172-173、240-241、6年p.124-125、182-183、198-201など |
| 1. 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けることができるように配慮されているか。 | 学習展開はスモールステップの段階を踏んで児童の思考に沿った構成とし、理解しやすいように配慮しました。  また、日常の事象における課題を取り上げ、問題解決を通して数理的に処理する技能が身に付くように配慮しました。 | ●学習展開においては、キャラクターの会話や補助設問（ア、イ…）を適宜設定し、基礎的・基本的な概念や性質などを理解しやすいように配慮しました。  →2上p.13、3上p.73、4下p.58、5年p.134-136、6年p.106-117など  ●日常の事象における課題や既習内容を問題として取り上げ、数学的活動を通して数理的に処理する技能が身に付くようにしました。  →2上p.87-89、3上p.18-20、4上p.49、5年p.16、6年p.106など |
| ③日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力を養うことができるように配慮されているか。 | 問題設定にあたっては、日常の事象から題材を取り上げ、見通しをもち筋道を立てて考察する力が身に付くように配慮しました。 | ●日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、解決の見通しをもったりその過程を振り返ったりして、児童が主体的に学習を進められるように、すべての主問題に「めあて」と「まとめ」を設定しました。さらに、課題発見の過程を大切にするため、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示しました。  →2上p.74、3上p.57-58、4上p.87、5年p.35、81、6年p.71など  ●単元導入段階では「これから学習することのめあて」を設定し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにしました。  →4上p.23など |
| ④基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力を養うことができるように配慮されているか。 | 既習の数量や図形の性質を、数学的な見方・考え方の観点から捉え直し、筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりする力が身に付くように配慮しました。 | ●4年以上の巻頭の「算数で使いたい考えの進め方」の中で、「結びつけて考える（統合的な考察）」と「広げて考える（発展的な考察）」について具体的に紹介しました。  →4上p.9、5年p.9、6年p.9  ●単元の扉や「じゅんび」で既習内容を振り返り、単元全体を通してそれらの内容をさらに統合的・発展的に深めていけるようにしました。  →2上p.18、3上p.36、4上p.10、5年p.34、6年p.36など  ●5、6年では、児童自身が1年間の学習を見通したり、既習内容を振り返ったりしながら学習が進められるように、年間1冊の合冊で構成しました。 |
| ⑤数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養うことができるように配慮されているか。 | 問題解決の過程で、図や表や式に表して考えたり、考えたことを様々な表現方法で伝えあったりするなど、数学的な表現力が身に付くように配慮しました。 | ●自力解決の場面や、伝えあう活動の中で図や表や式を活用するなど、数学的な表現力が身に付くようにしました。  →2上p.58-59、3下p.15-16、4上p.129、5年p.176-179、6年p.71-74など  ●2年以上に「見方・考え方を深めよう」の単元を設定し、問題解決の過程で、図や表や式に表して考えたり伝えあったりする力が付くようにしました。  →2上p.64-67、114-117、2下p.56-59、3上p.32-35、4下p.30-31、68-69、5年p.94-95、172-173、240-241、6年p.124-125、182-183、198-101  ●2年以上の上巻の「算数で使うことば」では、「はじめに」「次に」「だから」などの言葉を紹介し、言語活動において数学的に論理的な表現をする力が育成できるようにしました。  →2上p.6、3上p.6、4上p.6、5年p.6、6年p.6 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 1  算数科の目標 | ⑥数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、算数で学んだことから新たな問題を見いだしたり、生活や学習に活用したりしようとする態度を養うことができるよう配慮されているか。 | 数学的活動を積極的に取り入れ、児童が興味をもって楽しく学習できるようにしました。  また、算数で学習したことを生活や学習に活用する場面を多く設定しました。 | ●数学的活動をベースに学習展開を構成し、児童が興味をもって楽しく学習できるようにしました。  →1年②p.60-61、2上p.10-13、3上p.10-11、4下p.58-65、5年p.166-168、6年p.106-117など  ●学期末や学年末には、「たすのかな　ひくのかな」「どんな計算になるのかな」「買えますか？　買えませんか？」「見積もりを使って」「算数の自由研究」「わくわくSDGs」などの活用単元を設定し、算数で学んだことを使って、生活や学習に活用しようとする態度を育成できるようにしました。  ●「学びをいかそう」では、学習したことを算数や生活に生かして、算数の有用性を実感できるようにしました。  →1年p.69、2上p.14−15、3下p.61、4上p.96-99、5年p.202、6年p.15など  ●「算数ポケット」では、算数と関連した身近な話題や、学習したことから発展させて考えられる題材を盛り込み、数学的活動のよさや数学のよさに気付くことができるようにしました。  →1年p.58、2下p.74、3上p.67、4上p.59、5年p.73、6年p.179など  ●既に学習した方法と同じように考えを進めていける場面には「自分の力で」というマークをつけ、既習事項を生かして新たな学習を進めていけるようにしました。  →2下p.29、3上p.45、4上p.42、6年p.22-23など |
| ⑦学習を振り返ってよりよく問題解決するために、自らの学習を調整しようとしたり、粘り強い取り組みを行おうとしたりする態度を養うことができるように配慮されているか。 | 各単元のまとめのページでは、学習したことを振り返るとともに、それらを生活や学習に活用する活動例を紹介しました。 | ●各単元末に「学びのまとめ」を設け、「たしかめよう」「ふりかえろう」「やってみよう」の3段階の問題で構成しました。「たしかめよう」と「ふりかえろう」で、その単元で学習したことを振り返るとともに、「やってみよう」ではそれらを生活や学習に活用する活動例を示しました。  ●巻末に「学びをつなげよう」のページを設け、前の学年までの既習内容を、適宜振り返ったり学びなおしたりしながら学習を進めることができるようにしました。  →2上p.132-133、2下p.130-131、3上p.142-143、3下p.126-127、4上p.158-159、4下p.130-131、5年p.276-279、6年p.266-269 |
| 2  指導計画の作成と内容の取り扱い | ①主体的・対話的で深い学びが実現できるように工夫されているか。 | すべての主問題について、「めあて」と「まとめ」を明示するとともに、登場人物の会話を通して、主体的・対話的で深い学びが実現できるように構成しました。 | ●日常の事象や既習内容をベースに主問題を設定するとともに、すべての主問題に「めあて」と「まとめ」を設定し、児童が目的をもって主体的に学習に取り組めるようにしました。また、登場人物の対話場面を例示することにより、主体的・対話的に学習を進められるようにしました。  →2上p.74、3上p.57-58、4上p.85、5年p.35、81、6年p.71など |
| ②資質・能力の3つの柱をバランスよく育成することができるように工夫されているか。 | 数学的活動を大切にし、見通しをもち、自力解決や話しあう活動を通して、資質・能力がバランスよく育つように配慮しました。  また、学習者の立場からは自己評価や相互評価に役立ち、指導者の立場からは3つの観点での評価に役立つページを設定しました。 | ●数学的活動の中で、主体的に見通しを立てたり根拠をもって考えを進めたりする児童の様子を例示することで、知識・技能とともに思考力・判断力・表現力を育成することができるようにしました。  →2上p.102-103、3上p.36-37、4上p.84-85、5年p.34-35、6年p.42-47など  ●自力解決や友だちと話しあう過程で、わかったことを表現したり、よりよい方法を考えたりする活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力とともに、学びに向かう力を育成することができるようにしました。  →2下p.70-71、3上p.82-83、4上p.58-59、5年p.54-55、6年p.107-108など  ●各単元末の「たしかめよう」では、3つの観点に沿った内容を掲載する、問題の設定意図と関連ページを示す、チェックボックスを設ける、QRコンテンツで解答を掲載するなどにより、児童自身の自己評価や相互評価などができるよう配慮しました。  →2上p.61、3上p.87、4下p.78、5年p.92-93、6年p.104など |
| ③継続的な指導や学年間の円滑な接続ができるように工夫されているか。 | 単元冒頭に既習事項を振り返る問題を設定するとともに、巻末には既習内容を振り返るためのページを設けました。 | ●各単元の学習に入る前に既習内容を確認する「じゅんび」の問題を用意し、新しい学習に入る前にレディネスチェックができるようにしました。  ●巻末の「学びをつなげよう」では、前の学年までの既習内容を一覧表の形に整理し、児童がいつでも確認できるように工夫しました。また、学習の系統をわかりやすく記載し、教科担任制による専門的な指導の一助となるよう配慮しました。  →2上p.132-133、2下p.130-131、3上p.142-143、3下p.126-127、4上p.158-159、4下p.130-131、5年p.276-279、6年p.266-269 |
| ④複数領域の内容を関連付けて指導できるように工夫されているか。 | ある領域で学習した内容を他の領域での学習場面で活用するなど、複数の領域間の指導の関連を図りました。 | ●「C測定」領域（1〜3年）の学習内容については、4年以降でも活用できるよう配慮しました。  ●5年の「小数のかけ算」の単元の中で、辺の長さを小数に拡張しても図形の公式が使えることを調べたり、面積の学習で比例の関係を調べたりする内容を取り扱いました。  →5年p.44-45（公式を小数へ拡張する）、p.154（面積で比例の関係を調べる） |
| ⑤第1学年におけるスタートカリキュラムについて、どのように配慮されているか。 | 小1プロブレムに配慮し、1年の入門期では、別冊の「すたあと　ぶっく」を用意し、スムーズに学習に移行できるように配慮しました。 | ●1年の入門期には、スタートカリキュラム用の別冊「すたあと　ぶっく」を用意し、幼児期の体験をいかしながら、スムーズに小学校生活や学習に移行できるようにしました。また、A4判・中綴じ製本とすることで、書き込みやブロックを置いての操作がしやすいように工夫しました。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 2  指導計画の作成と内容の取り扱い | ⑥中学校との円滑な接続について配慮されているか。 | 小学校から中学校へのギャップ（中1ギャップ）をなくすために、算数の発展として数学につながる内容にも触れ、中学校への進学への期待感を高められるように配慮しました。 | ●算数の発展として数学につながる内容には「数学のとびら」のマークを付して触れ、中学校への接続を大切にするとともに、教科担任制による専門的な指導の一助となるよう配慮しました。  →4上p.83、5年p.93、225など  ●5年と6年の教科書を年間1冊の合冊にして、1年間を見通して1冊を使用するという中学校の学習形態にも慣れていけるようにしました。  ●「6年のまとめ　数学へのパスポ-ト」（6年p.208-229）では、小学校で学んだ内容を振り返るとともに、中学校の数学での学習事項との関連について紹介することで、算数の学習が中学校の学習に結びついていることを実感し、進学への期待感をもてるようにしました。 |
| ⑦障害のある児童の学習活動について配慮されているか。 | 支援を必要とする児童だけでなく、すべての児童にとって学びやすいように、全学年を通して様々な配慮をしました。 | ●認識しやすい文字（ユニバーサルデザインフォント）を使用する、主問題や重要文を枠で囲んで見やすくする、1文節が2行にまたがらないようにして読みやすくする、学習の「めあて」や「まとめ」を明記するなど、ユニバーサルデザインを採用するとともに、すべての児童にとって学習しやすい環境づくりをめざすインクルーシブ教育にも配慮しました。  ●判別しにくい配色を避けたり、見やすいイラストを採用したりするなど、多様な色覚特性をもつ児童にとって学びやすいように、全ページについて専門機関（メディア・ユニバーサル・デザイン協会）の確認を受けています。  ●拡大教科書や、文字の拡大・色反転・読み上げ機能等のあるデジタル教科書を用意し、多様な子どもたちの学習に対応できるようにしました。 |
| ⑧道徳科との関連について配慮されているか。 | 算数科の特質に応じて、物事を多面的・多角的に考える資質・能力を育成するとともに、自他の考えのよさを認め合う協働的な学習場面を設定しました。 | ●説明する場面や話し合いの場面では、自分の考えを相手に伝えるだけでなく、自分と異なる意見や立場も尊重できるように配慮しました。  →2上p.4-7、3上p.4-7、4上p.4-7、5年p.4-7、6年p.4-7など  ●「町内の掃除」（2上p.47）、「公園の空き缶集め」（4上p.96）「ペットボトルのキャップ集め」（5年p.161）などのボランティア活動を取り上げ、公共に寄与する態度が養えるようにしました。 |
| ⑨カリキュラムマネジメントの視点から、他教科および総合的な学習の時間との関連や柔軟な指導計画の作成について配慮されているか。 | 教材の選定にあたっては、算数科だけではなく、他教科との関連にも十分に配慮しました。  また、3学期制はもとより、2学期制など柔軟な指導計画へも対応できるように、配当時数および単元の配列についても配慮しました。 | ●以下の例のように、他教科との関連に十分に配慮しました。  【国語】「かぞえかた」（1年②p.140-141）、「算数で使うことば」（2〜6年上巻p.6）  【社会】「町探検の計画」（3上p.50-52）、「都道府県の人口」（3上p.59）、「世界の国々の人口」（4上p.10-12）、「県の予算、国の予算」（4上p.13）  【理科】「折れ線グラフ」（4上p.23-35）、「台風」（5年p.230）、「日本の森林」（6年p.82-83）、「日本の降水量」（6年p.204-206）  【生活】1年「すたあと　ぶっく」  【音楽】「音楽の発表会」（5年p.174-176）  【図工】「未来へのとびら」（6年p.232-233）  【家庭】「オーロラソースづくり」（6年p.128-131）  【体育】「好きなスポーツ」（4下p.104）、「大縄とび大会」（6年p.106-117）、「マラソン大会」（6年p.168-169）「未来へのとびら」（6年p.236-237）  【外国語】Reuse、Recycle、Refuse（4下p.109）、Save　Living（6年p.207）  【総合的な学習の時間】「食料」（3下p.104-107）、「ごみ、リサイクル」（4下p.106-109）、「エネルギー」（5年p.244-247）、「水害」（6年p.204-207）  ●3学期制、2学期制いずれの場合にも、学期の切れ目が単元途中にならないような単元配列としました。  ●余裕をもたせて各学期の時間配当をするなど、カリキュラムの変更にも柔軟に対応できるようにしました。  →1年127時間（予備時数9時間）、2年156時間（予備時数19時間）、3年158時間（予備時数17時間）、4年160時間（予備時数15時間）5年161時間（予備時数14時間）、6年137時間（予備時数38時間） |
| ⑩複式の指導にも対応できるように配慮されているか。 | 異学年の関連する領域の単元を、できる限り同じ時期に配置することにより、複式の指導にも対応できるように配慮しました。 | ●発達段階に応じて、関連する領域の単元をできる限り同じ時期に位置付けることで、複式の年間指導計画が作りやすいように配慮しました。（詳細は、新興出版社啓林館のHPに掲載する「複式年間指導計画」をご参照ください。） |
| ⑪キャリア教育の視点から、プログラミングやSTEAM教育に配慮されているか。 | 多様な職業に触れる場面を取り扱うなど、仕事や生き方について考えるページを設定しました。  また、プログラミングを通して、論理的思考力を身に付けられるように配慮しました。 | ●6年の「未来へのとびら　お仕事インタビュー」（6年p.230-240）では、STEAM教育やキャリア教育を意識し、様々な分野で活躍している4名の方々（アーティスト、科学者、研究者、エンジニア）のインタビュー記事を掲載し、仕事への思いや算数がどのように役立っているかなどについて紹介し、将来の仕事や生き方について考えることができるようにしました。  ●1年から6年までの全学年に「わくわくプログラミング」の単元を設け、楽しみながらプログラミングを体験し、将来に役立つプログラミング的思考、論理的思考力が身に付くように配慮しました。  →1年②p.94-95、2下p.110-111、3下p.52-53、4下p.104-105、5年p.242-243、6年p.186-187 |

（3）教科書の構成上の配慮と工夫

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 1  内容の程度 | 1. 児童の発達段階に照らして、学習内容の程度や展開は適切か。 | 児童の発達段階に照らして、学習内容や展開は系統的に段階を踏んで構成しました。 | ●各単元においては、児童にとって身近な題材や既習の内容をベースに導入し、児童の思考の流れに沿った展開としました。また、展開にあたっては、スモールステップの段階を踏んで構成しました。  ●新しい演算を学習した後には、適切な演算を決定し、根拠を説明する活用単元「どんな計算になるのかな」（1年は「たすのかな　ひくのかな」）を設定し、演算の意味理解が深まるようにしました。  →1年②p.116-117、2下p.60-61、3上p.90-91、4下p.52-53、5年p.96-97、6年p.82-83 |
| 1. 練習問題の内容や程度は適切か。 | 単元の学習内容を確実に理解するため、練習問題の難易度も単元の内容と同程度に設定しました。 | ●単元中の練習問題、学期中間と学期末の「復習」、単元末の「学びのまとめ」とも、単元の内容と同程度の難易度で設定し、学習内容を確実に習熟できるように配慮しました。  ●各学期の中間・期末にあたる時期に設定した「復習」では、その学年や前の学年の内容だけでなく、習熟が必要な計算問題などはさらに前の学年に遡って取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能が確実に定着するように配慮しました。また、全国学力・学習状況調査等で正答率の低かった問題にはマークをつけて、意識して取り組めるようにしました。  →3下p.82-83、5年p.216-217など |
| ③補充的・発展的な学習や探究的な学習の取り扱いについて、どのように配慮されているか。 | 単元の学習したことを活用して発展的に取り組める教材や、現実的な課題に対して数学的に探究できる教材を取り扱いました。 | ●単元の導入では、既習内容をもとに発展的に探究する題材を多く扱いました。  ●単元末の「学びのまとめ」の中の「やってみよう」では、これまでに学習したことを活用して発展的に取り組める課題例を扱いました。  ●学習指導要領の範囲外などの発展的な内容については「発展」のマークを付し、児童の興味・関心に応じて学習が進められるようにしました。  →2下p.75、3下p.45、5年p.113など  ●2年以上の巻末の「もっと練習」には、各単元の補充問題をまとめて掲載し、自学自習や家庭学習も含め、必要に応じて柔軟に扱えるようにしました。さらに、基本問題と挑戦問題の2種類を用意することで、習熟度別学習にも対応しました。 |
| 2  組織  ・  配列 | 1. 系統性や児童の発達段階等に照らして、各単元が適切に組織・配列されているか。 | 教科書で取り上げる時期については、領域全体のバランスや児童の発達段階、習熟に要する時間、季節などを考慮して組織・配列しました。 | ●特に低学年では、児童の興味の持続性を考慮し、同一領域の内容が何単元も連続しないように配慮しました。  →2下「かけ算（1）」→「かけ算（2）」→「三角形と四角形」→「かけ算の　きまり」など  ●類似内容を複数の単元に分け、習熟の時間が確保できるように配慮しました。  →5年「割合（1）」（1学期）「割合（2）」（2学期）「割合のグラフ」（3学期）など  ●学年の始めの時期には、楽しく学習できる内容や準備に負担が少ない題材を取り上げました。また、屋外での活動や水を使う単元は暖かい時期に設定しました。  →2年「ひょうと　グラフ」（4月）、「かさ」（7月）など |
| 3  分量  ・  時間 | ①各学年の内容の分量は、年間の指導時間数に照らして適切に配分されているか。 | 児童の知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の向上を確実に図れるように、時間数に応じて内容を適切に配分しました。 | ●各学年の学習内容を吟味し、理解や定着に必要なページ数と十分な時間数が確保できるように構成しました。  ●領域や学習内容によって分量に大きな差が出ないよう、ページ数と時間数を計画的に配分しました。  ●2年以上の巻末の「もっと練習」には、各単元の補充問題をまとめて掲載し、自学自習や家庭学習も含め、必要に応じて柔軟に扱えるようにしました。  ●余裕をもたせて各学期の時間配当をして、各学校の実態に応じて柔軟な指導ができるよう配慮しました。  →1年127時間（予備時数9時間）、2年156時間（予備時数19時間）、3年158時間（予備時数17時間）、4年160時間（予備時数15時間）5年161時間（予備時数14時間）、6年137時間（予備時数38時間） |
| ②各単元の内容は、1時間毎の授業に照らして適切な分量で構成されているか。 | 実際の授業の流れを想定し、1時間の分量を適切に配分しました。 | ●1時間の授業の流れを想定し、原則1～2ページに収まる分量で構成することで、無理のない学習ができるよう配慮しました。 |
| ③練習問題や復習問題の分量は適切か。 | 練習問題、復習問題は、基礎的・基本的な内容を習熟させるのに十分な分量に精選し、計画的に配置しました。 | ●練習問題、復習問題を計画的に設定し、各学年20〜30時間程度の配当時間をあて、学習内容の理解の定着と知識の持続を図れるようにしました。  ●各巻末には「じゅんび」や「もっと練習」を設け、適宜柔軟に時間を使って補えるようにしました。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 4  教材  ・  素材における創意工夫 | ①割合や統計の学習について、特別な工夫や配慮がされているか。 | 割合や統計など児童のつまずきの多い内容については、学年をまたいでスパイラルに学習できるように配慮しました。 | ●割合は「aのb倍がc」という数量の倍関係をベースにした系統的な構成とし、2年で初めて「倍とかけ算」を学習した後、3・4年で整数倍、4・5年で小数倍、6年で分数倍のように、学年を超えてスパイラルに学習できるように配慮しました。  ●数量の倍関係を把握するために、一貫して関係図を提示して丁寧に説明し、児童が倍概念を理解しやすいようにしました。  ●統計単元では、統計的な問題解決力の育成を目指して、PPDAC（Problem-Plan-Data-Analysis-Conclusion）のプロセスを意識した単元構成としました。例えば6年では、大縄跳びという身近な題材を取り上げ、統計的な手法を活用しながら問題解決していく過程をPPDACのプロセスに沿って展開しました。 |
| ②環境問題、食育、防災、SDGsなど、今日的な社会課題が取り上げられているか。 | 今日的な社会課題に寄与する態度を養うため、様々な教材を取り上げました。 | ●環境の保全の観点から、空き缶集め（4上p.96）、リサイクル（4下p.106-109）、気候変動（6年p.204-207）などを取り上げました。  ●健康・食育・生命尊重の観点から、朝食（3上p.81）、食品ロス（3下p.104-107）、給食（5年p.208-209）、夕食の献立（6年p.80）、茶碗一杯分の米（6年p.184）、心臓の鼓動の回数（6年p.185）などを取り上げました。  ●防災の観点から、防災マップ（5年p.165）、水害（6年p.204-207）などを取り上げました。  ●3年以上に「わくわくSDGs」のページを設け、3年「食品ロス」、4年「ごみ、リサイクル」、5年「エネルギー」、6年「水害」などのテ-マを扱い、環境の保全や、健康、防災などに寄与する態度を養えるようにしました。  →3下p.104-107、4下p.106-109、5年p.244-247、6年p.204-207 |
| ③人権、福祉、ジェンダ-などについて配慮されているか。 | 人権などの専門家の監修のもと、人権、福祉、ジェンダ-などについて十分に配慮しました。 | ●登場するキャラクターの性別を明確にしない、男女の役割や言葉遣い、服装の色・種類などを固定的なイメージで表現しないように配慮しました。  ●イラストで他国ルーツの子どもや、車いす・眼鏡を使用している子どもなどを掲載し、多様性を認める態度が養えるように配慮しました。 |
| ④児童の興味・関心を喚起し、学習意欲を起こさせるように工夫されているか。 | 日常生活や身近な題材から導入し、数学的活動を通して探究的に学ぶことで、算数の有用性を実感できるようにしました。 | ●児童の身近な教材や既習の内容をベースに導入するとともに、数学的活動を通して問題解決する学習展開とすることで、児童が興味・関心をもって算数の学習に取り組めるようにしました。  →2上p.74、3上p.57-58、4上p.85、5年p.35、81、6年p.71など  ●「たすのかな　ひくのかな」「どんな計算になるのかな」「買えますか？　買えませんか？」「見積もりを使って」「算数の自由研究」「わくわくプログラミング」「わくわくSDGs」などの活用単元を設定することで、日常生活と算数の関わりを実感できるようにしました。 |
| 5  表現  ・  表記 | 1. 文章表現は、読みやすく意味が捉えやすいものになっているか。 | 意味が捉えにくい表現や、いろいろな意味に捉えられるあいまいな表現などは避け、正確で丁寧な文章表現に配慮しました。 | ●文章表現については、国語教育・言語力の専門家の監修のもと、読みやすく意味が捉えやすいように配慮しました。  ●文章の改行位置を意味の区切りで行い、読みやすさに配慮しました。  ●教科書で取り上げた定義は、児童の発達段階を考慮して、数学的な厳密性よりも直観的に捉えやすく、わかりやすいものを採用しました。  →3下p.5「円」、4上p.130「割合」など |
| ②漢字や仮名遣い、アルファベットなどの扱いは、国語科や英語科との関連が配慮されているか。 | 当該学年の配当漢字までを扱い、見開きの初出にふりがなを付けました。 | ●漢字は原則として当該学年までの配当漢字を扱い、見開きの初出にはふりがなを付けました。  ●算数用語には配当学年に関わらず、必要に応じてふりがなを付けました。なお、カタカナは1年の3学期以降で使用しました。  ●アルファベットは4年以降で使用しましたが、2、3年でも指導する量の単位の書き方はアルファベット指導との関連を考慮して丁寧に記述しました。 |
| 6  図絵  ・  写真  ・資料 | 1. 児童の理解にふさわしい挿絵や図、写真などが効果的に使用されているか。 | 現実の事象を提示する場面や、児童に活動を促す場面では写真や挿絵を掲載し、児童が実感を持って理解できるように配慮しました。 | ●単元の導入時など効果的な場面では、生活に密着した題材をダイナミックな写真や挿絵で提示しました。  →1年①p.20-21、40-41、1年②p.46-47、2上p.10-11、47、2下p.2-4、3上p.50、3下p.56、4上p.63、4下p.58、5年p.226、6年p.10-11など  ●児童が興味をもち楽しい活動がイメージできるように、また、問題の理解や解決に役立つヒントになるように、学年の発達段階を考慮したわかりやすい挿絵を採用しました。  →1年①p.18-19、1年②p.30-32、2上p.87、2下p.24、3上p.10、3下p.92、4上p.10、5年p.166、6年p.76など  ●作業や調査などの活動の場面では、児童が実際に活動している臨場感のある写真（必要に応じてQRコンテンツとして動画等も用意）を効果的に使用し、活動がイメージしやすいように配慮しました。  →1年①p.42-43、1年②p.52-53、2下p.77-80、3上p.97、3下p.2-6、4上p.49-51、5年p.162、6年p.25など |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 6  図絵  ・  写真  ・資料 | 1. 児童の思考の拠り所となる基本操作や図などについては、発達段階を踏まえて系統的に扱われているか。 | 基本操作や問題解決に有効に働く図については、学年を追って系統的に扱いました。 | ●数や計算の意味理解のために、20までの数については数図ブロックを基本とし、具体物・半具体物・数字の関係を捉えながら数観念が身に付くように配慮しました。一方、記数法的な見方が必要となる大きな数については、計算棒で束をつくる・くずすという操作と繰り上がり・繰り下がりとを対応させながら、数や計算の理解が深まるように配慮しました。  →1年①p.18、1年②p.32、61、77、2上p.19-25、48-56など  ●数の相対的な大きさに着目させたい場面では、児童が個数に着目した相対的な見方ができるように、貨幣や紙幣を取り上げました。  →1年②p.107、2上p.77、2下p.89、3上p.29、3下p.23、4上p.45、113など  ●問題解決の際に有効に働くテープ図・線分図・関係図・表などのかき方については単発的に扱うのではなく、本単元の中や思考法単元「見方・考え方を深めよう」の中で段階を追って系統的に扱いました。  →2上p.64-67、114-117、2下p.56-59、3上p.32-35、3下p.14-19、94-97、4下p.68-69、83-88、5年p.94-95、172-173、6年p.124−125、182-183など  ●演算決定の際などに用いる数直線を系統的に扱い、そのかき方を本文や巻末に詳しく整理しました。  →5年p.274-275、6年p.264-267など  ●考えやすい図や表は児童によって異なるため、テープ図、線分図、関係図、数直線図、表などを複数提示し、特定のものだけに偏らないように配慮しました。 |
| 1. 引用されている資料は、正確で新しいものが使われているか。 | 統計資料は可能な限り最新のものを使用しました。 | ●教材として取り上げている統計資料については、児童に馴染みやすく算数科の指導目標に合ったものとし、正確で新しいものを使用しました。  →4上p.34、86、4下p.106-108、5年p.206-211、p.244-246、6年p.120-121　p.204-206など |
| 7  ユニバーサルデザイン | 1. 字体は、視認性が高く読みやすいものになっているか。 | 文字の大きさや書体、行間などは児童の発達段階を考慮して読みやすいように配慮しました。 | ●文字は国語科との関連を考慮して教科書体を基本とし、ボディが広くて読みやすい肉厚の字体（ユニバーサルデザインフォント）を使用しました。また、算数用語など強調する太字体についても、点画の正しい「学参フォント」を採用しました。  ●文字の大きさについては、児童の発達段階を考慮して、低学年では大きく、中高学年では徐々に小さくしました。また、文字間や行間も読みやすく設定しました。 |
| 1. 様々な色覚特性をもった児童に対する配慮はされているか。 | すべての児童にとって、見やすい色使いに配慮しました。 | ●色使いについては、カラーユニバーサルデザイン（CUD）の観点から、見分けることが困難な配色は避け、色だけで判断するような情報は扱わないなどの配慮をしました。特に、色覚特性については全ページについて専門機関（メディア・ユニバーサル・デザイン協会）の確認を受けています。 |
| ③紙面構成は、読みやすいように配慮されているか。 | 一目で紙面構成が理解できるよう、シンプルでメリハリのある紙面構成を工夫しました。 | ●紙面を文字でぎっしり埋めず、写真や挿絵などを有効に活用したり、かき込みスペースを設定して余白を確保したりするなど、視覚的に内容を捉えやすくなるように配慮しました。  →1年①p.12-13、1年②p.4-5、14-15、2上p.13、3上p.19など |
| 8  印刷  ・  造本 | 1. 文字、挿絵、写真などは、鮮明に印刷されているか。 | 文字、挿絵、写真などを、見やすく鮮明に印刷しました。 | ●文字、挿絵、写真などは、4色のカラーインクを使って見やすく鮮明に印刷しました。  ●挿絵や写真の上に文字が重なる場合は、文字の背景やまわりを白くするなどの処理を施して読みやすいように配慮しました。  →1年①p.20、2上p.4、3上p.4、4上p.4、5年p.4、6年p.4など |
| 1. 用紙・製本は、堅牢で使いやすいものになっているか。 | 丈夫で軽い用紙を使用し、堅牢な製本にしました。 | ●多様な児童の取り扱いや長期間の使用に耐え得るように、開きやすく、強度が保てる「あじろ綴じ」を採用し、きわめて堅牢に製本しました。  ●表紙・裏表紙には汚れにくく丈夫な加工を施しました。また、裏表紙の氏名欄には、鉛筆でも書き込みがしやすいように加工しました。  ●1年の「すたあと　ぶっく」では、書き込んだり消したりしやすいように、特別な用紙を使用するとともに、ブロックの操作がしやすいように中綴じの製本形式を採用しました。  ●巻末の付録には、丈夫な厚紙や書き込みのしやすい紙などを使用し、児童が活動しやすいように工夫しました。  →2上p.135-136、2下p.133-135、3上p.145-147、3下p.129、4上p.161、5年p.281、6年p.271など |
| 1. 環境やアレルギーに対して配慮されているか。 | 用紙・印刷において、環境やアレルギーなどに配慮しました。 | ●環境に優しい再生紙や化学物質をおさえた植物油インキを使用するなど、環境やアレルギーに配慮しました。 |
| 1. 教科書の重さは、児童の身体的負担に対して配慮されているか。 | 用紙・印刷において、軽量化に配慮しました。 | ●軽量で裏写りせず鮮明に印刷できる用紙を採用するなど、教科書の軽量化に配慮しました。 |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目 | 観　点 | 特　色 | 具体例 |
| 9  日本型学校教育の課題への取り組み | ①感染症や災害の発生等を乗り越えて、学びを保障することができるように配慮されているか。 | QRコードから「解説動画」を視聴できるようにし、休校時などにおいても学びを保障できるようにしました。 | ●すべての主問題（本時の問題）について、QRコードから「解説動画（スマートレクチャー）」を視聴できるようにし、災害時などの休校時においても学習が続けられるように配慮しました。  ●教科書で学習する際の感染対策についての留意点を巻頭に掲載しました。  ●写真撮影等の教科書制作段階における感染症対策には、万全を期しました。  （感染症対策につきましては、教科書巻頭にも記載しました。） |
| ②個別最適な学びの実現に向け、個の特性や興味・関心に応じた指導・学習ができように配慮されているか。 | 児童の興味・関心や進度などに応じて柔軟に扱える教材を掲載したり、QRコードに「解説動画」をリンクさせたりするなど、個別最適な学習にも対応できるようにしました。 | ●巻末に「じゅんび」を設定し、単元に入る前に既習内容をおさえておくことができるようにしました。  ●巻末の「もっと練習」に各単元の補充問題をまとめて掲載することで、必要に応じて柔軟に扱えるようにしました。さらに、基本問題と挑戦問題の2種類を用意することで、個別最適な学びへの対応もできるようにしました。  ●紙面にQRコードを掲載し、タブレット等のICT機器を使って学習できるコンテンツを充実させました。特に、ヒント・答えが確認できる練習問題のコンテンツや、「よくあるまちがい」を確認するコンテンツ、動画解説のコンテンツなどを用意し、児童の習熟度に応じて個別最適な学びが実現できるようにしました。  →1年p.11（たしざんの　かあど）、2上p.47（じゅんび）、2下p.34（練習）、3上p.87（たしかめよう）、3下p.29（よくあるまちがい）、4上p.43（よくあるまちがい）、4下p.80（復習）、5年p.248（もうすぐ6年生）、6年p.43（動画）  ●すべての主問題（本時の問題）について、QRコードから「解説動画（スマートレクチャー）」のコンテンツを視聴できるようにし、特別支援や個別最適化、さらには家庭学習にも対応できるようにしました。 |
| ③協働的な学びを通して、児童が持続可能な社会の創り手となることができるように配慮されているか。 | 対話や協働的な学習場面を多く設けることで、他者と協力しながら問題解決を図る態度が育つように配慮しました。 | ●問題解決にあたっては、友だちとの話しあいや協働的な学習場面を取り入れ、他者と協力したり自分の役割を積極的に果たしたりする態度を養えるようにしました。  ●3年以上に「わくわくSDGs」のページを設け、3年「食品ロス」、4年「ごみ、リサイクル」、5年「エネルギー」、6年「水害」などのテ-マを扱うことで、持続可能な社会の創り手になることができるようにしました。  →3下p.104-107、4下p.106-109、5年p.242-245、6年p.204-207 |
| ④具体操作やICT活用を効果的に組み合わせることで、教師・児童の力を最大限に引き出せるように工夫されているか。 | QRコードからアクセスできるデジタルコンテンツを多数用意することで、教師の指導の幅を広げるとともに、児童にとっては1人1台端末を有効活用した深い学びを実現できるようにしました。 | ●巻末に付録を付けることで、具体操作を通して実感を伴った理解ができるように工夫しました。  →2上p.135-136、2下p.133-135、3上p.145-147、3下p.129、4上p.161、5年p.281、6年p.271など  ●QRコードからリンクしたデジタルコンテンツを使用することで、多様で効果的な指導を行うことができるようにするとともに、児童にとっては、個々の興味関心に応じて、主体的に学びを深めることができるようにしました。  →1年②p.4、14、2上p.13、15、2下p.52、98、100、3上p77、3下p.56、4上p.72、4下p.93、5年p.29、136、186、209、6年p.141など |
| ⑤学校における働き方改革や指導経験の浅い教師について配慮しているか。 | 学習展開における「めあて」と「まとめ」の明示、数学的な見方・考え方の可視化など、教師を支援するよう配慮しました。 | ●すべての主問題について、「めあて」と「まとめ」を明示したり、数学的な見方・考え方を明示したりするなど、学習の流れとポイントを明確にすることで、経験の浅い教師にとっても指導しやすいように配慮しました。  ●すべての主問題について、QRコードから「解説動画（スマートレクチャー）」を視聴できるようにし、教師が授業の準備として、教材や学習の流れを確認することができるようにしました。  ●教師用指導書、デジタル教科書等を充実させることで、効率的な指導を支援し、学校における働き方改革の推進にも配慮しました。 |
| ⑥個人情報の取り扱いについて配慮しているか。 | デジタル教科書等で取り扱う個人情報について、取り扱いには十分に配慮しています。 | ●当社が取り扱う全ての個人情報（デジタル教科書等で取り扱う個人情報）について、社会的使命を十分に認識し、本人の権利の保護、個人情報に関する法規制等を遵守します。 |
| ⑦1人1台の端末が整備されたことを踏まえ、ICTを適宜適切に活用して学ぶことができるように工夫されているか。 | QRコードからアクセスできる質の高いデジタルコンテンツを多数用意しました。また、全学年でプログラミングに触れる機会を設け、発達段階に応じて系統的に学習・指導ができるよう工夫しました。 | ●1人1台の端末を効果的に活用しながら学習を進められるよう、QRコードから「動かす」「動画」「問題練習」「スライド」「解説動画（スマートレクチャー）」の5種類のコンテンツを利用できるようにしました。6学年で計1614コンテンツを用意し、ICTを適宜適切に活用して学習を行うことができるよう配慮しました。  ●すべての主問題（本時の問題）について「解説動画（スマートレクチャー）」を視聴できるようにし、個別最適な学びや特別支援、休校時への対応ができるようにしました。  ●全学年にプログラミング単元（時数配当あり）を配置し、系統的にプログラミングに触れる機会を設けました。また、すべての学年でオリジナルコンテンツとscratchの2種類のコンテンツを用意し、指導の目的や学習実態に応じて使い分けられるようにしました。  ●デジタル教科書ではかきこんだ内容を保存したり共有したりできる機能を備え、個別最適な学びと協働的な学びがより深まるよう配慮しました。学習者用デジタル教材には練習問題の自動採点機能を搭載し、指導者用デジタル教科書で進捗や正答率を把握することが可能です。 |